

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

第1学年の校外学習の実施にあたり、学年の教員がクラスの枠を越え、全生徒と関わりながら指導や助言を行った。班決め・訪問地決め・昼食場所については担任が確認し、コース表・予算書・訪問地事前調べシート・マナー調べ・事後学習(スライド作成)・事後学習フォトコンテストなどは、学年の教員が分担して行った。これらの取組を「進捗状況確認シート」で確認できるようにした。

作業が完了したら、教師からシールをもらい、貼っていくルールとし、班の進捗状況を視覚的に確認できるように工夫した。これにより、教師が適切な声かけや励ましを行い、みんなで協力して校外学習をつくり上げていくという雰囲気を大切に育てることができた。



【取組2】(A中学校)



校外学習の班での取組を通して、一人一人が自分の役割をしっかりと自覚し、班員に働きかける場面が多く見られた。責任をもち役割を果たすことにより自信が付くとともに、班員との協働からお互いを認め合うつながり(きずな)ができた。

事後学習の発表やお楽しみのフォトコンテストなど、学年が一つになった実感を、生徒だけでなく教師ももつことができた。

【取組3】(B中学校)

体育の授業において、第1学年から生活班を中心に授業を展開している。班でリーダーを決め、リーダーを中心に各種目の課題を見付け協力して解決していく。この活動を続けることにより、学校行事や学級活動においてもリーダーを中心にみんなで協力し、楽しく取り組む姿勢が身に付いた。修学旅行の事後発表などは、どの班も工夫した発表で笑顔と拍手で温かい雰囲気となっていた。

【取組4】(C中学校)

校内研修会で学び合いを大切にした数学の授業を実践した。課題が終わった生徒が、課題にまだ取り組んでいる生徒の必要とする場面で、教え合う学習を行った。理解していることを言語化して教えることにより、生徒の理解を更に深めることができた。分からない生徒は手を挙げ、積極的に友達から教えてもらう姿が見られた。教え合いを意図的に設定することで、学習の理解だけでなく、生徒同士の関係も深めていた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

- 1、その日の議題に関する協議
- 2、支援を要する生徒への対応の検討
- 3、各担当からの情報交換

以上の流れで会議を進行している。特に、「2」について、方向性を確認し、全職員で共有する流れが定着し、見通しをもって会議を設定したり、実施したりすることができている。

アウトリーチによる支援（B・C中学校）

- ・SSW と連携し、不登校生徒の保護者と面談を実施。安心できる家庭環境と学校とのより良い関係（相談・協力）の継続を大切にすることを保護者に伝えた。
- ・夏休み明けに別室利用生徒の登校しぶりがあった。巡回教員が保護者から状況を聞き家庭訪問を実施した。巡回教員の語りかけにより登校に結び付いた。

校内別室における支援（C中学校）

普通教室を10個の個人ブースと3個のテーブルからなる集団のコミュニケーションスペースに分けた。校内別室指導支援員と共に、学習指導補助員・区講師等がサポートに入りながら生徒の支援をしている。支援として、学習指導やゲームを通じたコミュニケーションのほか、バレーボール、卓球、縄跳びなどの運動を行っている。1日中別室に滞在する生徒、別室を拠点に1日何時間か授業に参加する生徒、教室にいたことがつらい時、一時的に別室を利用する生徒など、様々な状況の生徒を支援している。



デジタル機器を活用した支援（E中学校）

担任と協力し、授業を担当する教師が、授業配信のサポートを行っている。別室では生徒が事前に時間割を確認し、授業に参加している。

生徒自身が選択し、無理なく参加できるよう支援している。



関係機関との連携（全巡回担当中学校）

校内委員会でのアセスメントの結果から関係諸機関と連携が必要とされる生徒については、管理職を通して、子ども家庭支援センター・児童相談所・医療機関などに支援の依頼を行っている。必要に応じてケース会議を開き、情報の共有と支援の実践を行っている。

成 果

不登校対応巡回教員による校内研修会等を通して、不登校生徒への対応や別室利用についての理解促進を図った。別室を利用する生徒が安心して過ごすことのできる環境が整備できた。

課 題

別室の利用の理解、環境整備について教員間で共通理解を図り、校内別室指導支援員と各担任との連携を充実させていく。